

新潟職能短大通信

新年のはじめに

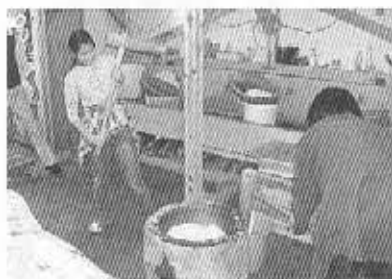
新年あけましておめでと
うございます。本年もよろ
しくお願い申し上げます。

当校では、年末の仕事納
めの後、職員と学生有志に
よる餅つきを行いました。
餅米は職員のカンパで購入
し、臼や杵などの道具類も
それぞれが持ち寄ってくれ
ました。今は昔ほど正月に
餅を食べなくなりました
が、できれば新年を迎える
餅つきの行事は残してい
きたいものです。

私は、若い頃、年の暮れ
になると和菓子を製造して
いる親戚で餅つきを手伝
たことがあります。年末の
短期決戦ですから製造現場
はまるで戦場のようです。
高校生のアルバイトと一緒
に30kgの米袋を担いで
走り回ります。といた米は
テント地の特大水槽につけ
込み、水切りをしてセイロ
で蒸します。餅つき機は
自動化していますが、大き
な鏡餅をつくるには、水
の出るタイミングや餅つき時
間をタイマーで微妙に設定
する必要があります。小さ
な鏡餅は新人でも作れます
が、二升、三升の大きな鏡

餅となると私の出番です。

「もち肌」というようにつ
やのあるなめらかな曲面を
出すには、手のひらで餅を
しごいて中の生地を外へ押
し出します。これを繰り返
すとゴムボールのような弾
力とつやが出てきます。そ
こで形を整えて一気に裏返
し、すぐに大きな扇風機の
前で冷やします。こうする
ことでひび割れとタレを防
ぐことができます。このよ
うに商売としての餅つきは
大変ですが、昔ながらの餅
つきは楽しいものです。写
真は一昨年に行った餅つき
の様子と、「昔取った杵
柄」でつくった鏡餅です。
身体で覚えた技は忘れませ
ん。



女子学生もヨイショ!



完成した鏡餅

さて、このところの急激
な経済状況の悪化で来年度
の就職戦線が心配されると
ころです。自動車を中心
に日本の経済を牽引してきた
ものづくり産業が減速傾向
にあります。しかし、日本
のものづくり力が弱って
きたわけではありません。
数々の不況を乗り越え、た
びに新たな技術力を蓄積し
てきた企業は元気です。
求人が減ってきたとはいえ
慢性的な人手不足が続いて
いる職種や企業もありま
す。しかし、食わず嫌いの
人がいるように最初から製
造業を敬遠してしまう若者
が多いのも事実です。もの
づくりといってもイメージ
がつかめない、あるいは全
体が見えないために興味を
失って辞めてしまう場合も
あるようです。ある鋳物会
社では、入社してすぐに辞
めてしまう社員が多かった
そうです。そこで、木型製
作をはじめ製造の全工程を
体験してもらおうと表札づ
くりを研修に取り入れたと
ころ定着率が大幅に高ま

たとのこと。新入社員
には、作業を教えることも
大事ですが仕事全体を把握
させることも重要のよう
です。



A Happy New Year

当校では、卒業研究の一
環として一人一人の学生が
設計から製作までを体験す
る制作実習を行っていま
す。三月の発表会に向けて
これからの追い込み本番に
なります。また、校舎の前
には学生等が設計し設置し
たイルミネーションが一月
七日の夜まで点灯してい
ます。どうぞご覧下さい。

新潟職能短期大学校

校長 平塚 剛一

